

令和3年度 (2021年度)
夏休みボランティアスクール感想集
《中学生コース》



はじめに

本会では、福祉教育推進の一環として、夏休みボランティアスクールを毎年開催しております。

今年度は、8月5日（木）に西条市東予総合福祉センターで、「夏休みボランティアスクール中学生コース」を開催し、市内中学生16名の参加がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響下にあり、午前中だけのプログラムとなりましたが、認知症サポーター養成講座、まちづくりに関する学習、多様な地域社会の学習と多彩な内容で実施することができました。

参加した中学生からも、「学んだことをもとに、福祉について啓発していきたい。」

「みんなが暮らしやすいまちづくりに協力したい。」などの、心強い声がきかれ頼もしい限りでした。

夏休みの貴重な一日、本事業にご参加いただき、福祉への関心を深めた中学生の方々が今後さらに学びを深めていただくことを願っております。

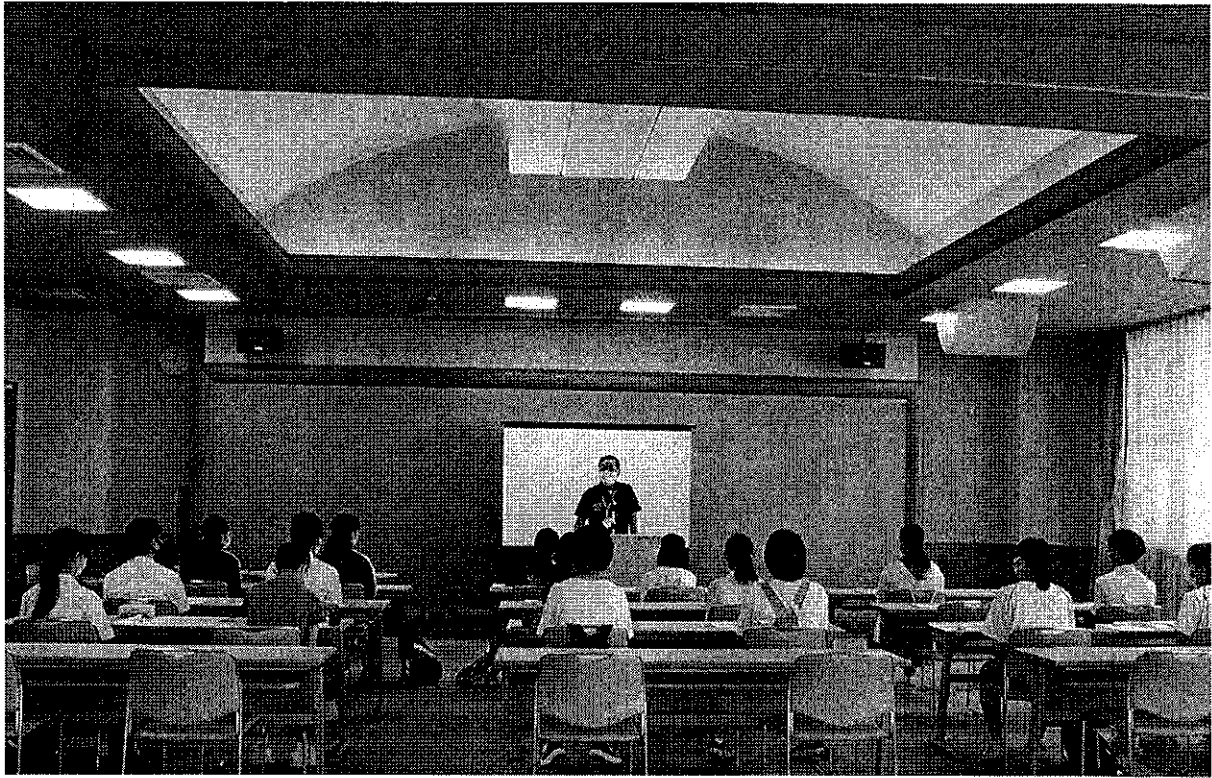
令和3年8月

社会福祉法人
西条市社会福祉協議会

令和3年度夏休みボランティアスクール 中学生コース日程表

令和3年8月5日(木) 中学1年生～中学3年生対象

時 間 帯	内 容	講師等
9:00～9:30	開校式、主催者あいさつ 記念撮影	西条市社会福祉協議会
9:30～10:20	認知症サポーター養成講座	西条市包括支援センター
10:30～11:20	先輩のお話を聞こう	西条市社会福祉課
11:30～12:30	福祉やまちづくりについて思いっ きり考えてみよう	西条市社会福祉協議会 NPO法人 西条まちづくり応援団
12:30～12:40	まとめ、閉講式	



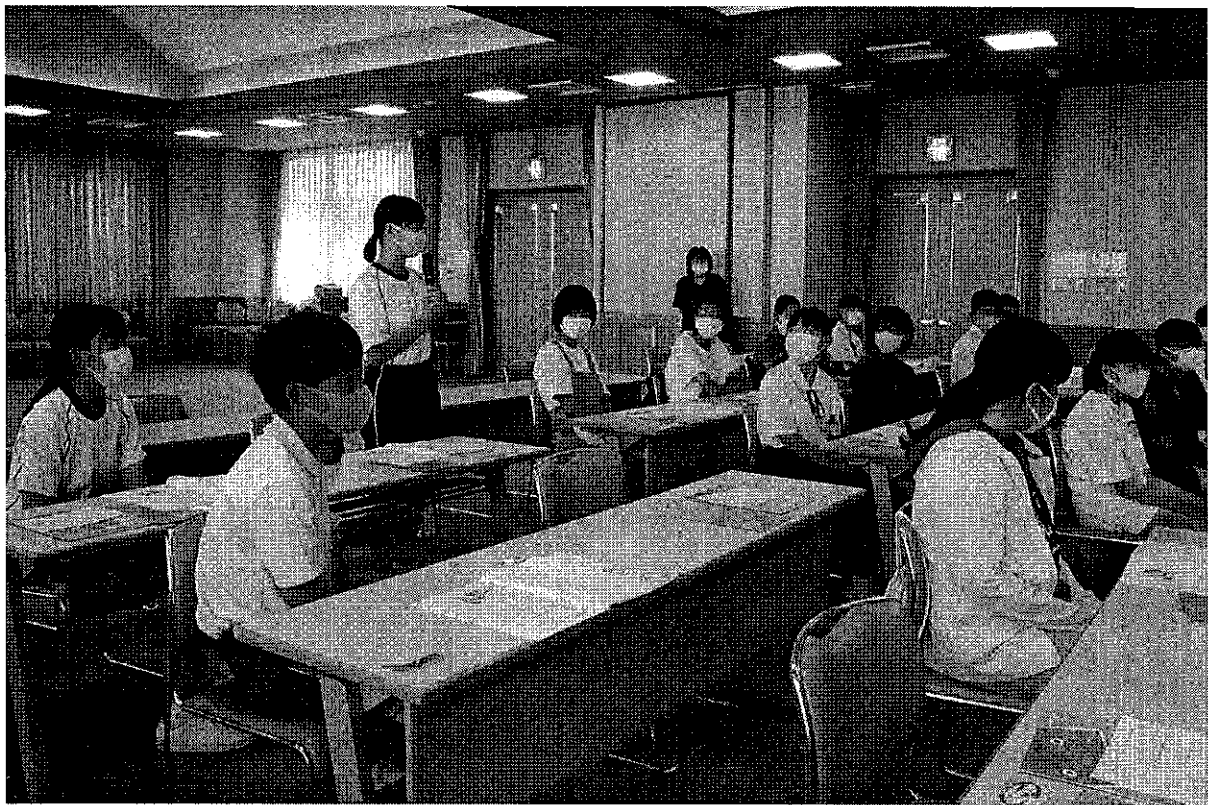
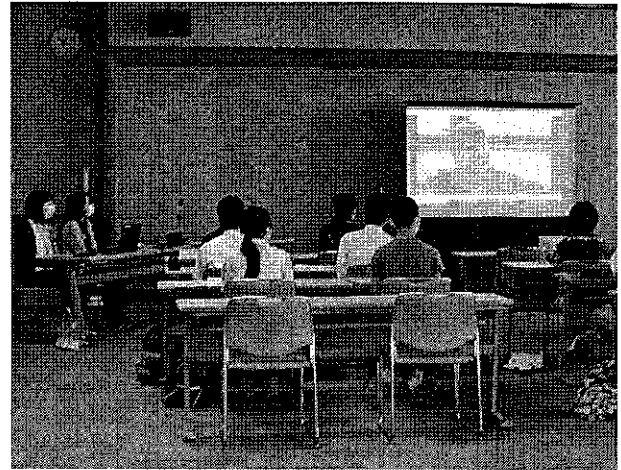
開校式



記念撮影

認知症サポーター養成講座

【講師】西条市役所 包括支援課職員



【内 容】

- ◎ 認知症について（講話）
- ◎ 認知症クイズ
- ◎ 認知症啓発ビデオ視聴

【感想】

☆認知症サポーター養成講座☆

認知症についての知識がたくさん身についたのでよかったです。この知識をいかして周りの人に広めていきたいなと思いました。認知症の方が周りにいたら、やさしく接したいなと思いました。

僕は認知症についてはあまり知っていることがありませんでした。しかし今回の学習で、本人が一番なやんでいるということや、認知症の方への正しい対応をしっかりと学ぶことができました。今回の学習で考えたことや学んだことをみんなと共有し、認知症の方が困らない国になるように僕たちが、がんばっていこうと思います。

認知症について、いろいろ知ることができました。認知症になっていることは、自分が一番分かっているということをはじめで知りました。

もし、認知症の方にあったら、家族が認知症になったら、今日教えていただいたことを活かしていきたいと思います。

認知症の方には、おこらず優しく接し、すべて否定はせず、分かりやすく説明したいと思いました。認知症について、いろいろ知ることができてとても良かったです。

認知症は、年をとると誰にでも起こってしまうことが分かりました。

ただし接し方で良くなったり進行が遅くなったりすることが分かりました。手助けをしたり、優しく笑顔で接することによって認知症の人が安心したり、笑顔になったりして生活できるようになることが分かりました。

私も今日教わったことを活かしながら、生活したいと思いました。

認知症というワードは聞いたことがあるだけで、詳しいことはあまり知らなかったです。自分のおばあちゃん、おじいちゃんが認知症になった時の対処法を正しく知って理解できました。

認知症には、治らないものと助けがあれば治るものがありました。周りの人が治らないものだと分かっても、優しく笑顔で接することができる人になりたいです。

認知症は、聞いたことがあったけど、詳しいことは知らなかったなので、知れて良かった。もし、認知症の人がいたら優しく接してあげたい。

認知症について前よりも、もっと詳しく知れたので良かったです。これからもお年寄りの人と接するときは優しく接してあげたいです。

認知症のことがいろいろ知れてよかったです。

【感想】

☆認知症サポーター養成講座☆

認知症への接し方がよく分かりました。認知症の人を安心させるために優しく接するのが大切だということが分かりました。私の身のまわりの高齢者にも優しく接したいです。そして今日習ったことを身近な人にも教えたいです。今日習ったことを今日から活かしたいです。

認知症は、だれにでも起こるかもしれない脳の病気ということが分かって驚きました。周りの人の支えで、認知症がよくなることがあることが分かりました。

認知症の人がいたら自然にやさしく接することが大切だということが分かりました。本人が一番不安だということを理解して接したいです。

私は、今日のお話を聞くまで、認知症についてほとんど知りませんでした。特に印象に残っているのは、認知症に初めに気が付くのは本人で、いちばんつらいのも本人だということです。

だからもし認知症になっている人が失敗したり困っていたりしたら、怒らずまずは笑顔で気持ちに寄り添いたいです。認知症の人でも楽しく安心してくらせるようにさりげなくサポートし、暮らしやすいように自分にできることを考えて様々な工夫をしていきたいです。

認知症になってしまった人も不安でしかたなくて、だからこそビデオのようになってしまっていると分かりました。家族が相手の心によりそって、できるだけ心配ごとを減らしてあげる、それが相手にとってもうれしいことであるし、もしかしたら症状を、遅らせることができるかもしれないので、これからそのことを意識して行動しようと思いました。

私は祖父が認知症になったと知り、このスクールに参加しました。今まで認知症は、記憶障害など中核症状しか起こらないと思っていたので、元気や気力がなくなる行動、心理症状も起こると知って驚きました。

今後、祖父に接する際は、ここで学んだ「さりげなく自然に」を大切に笑顔で接して行きたいと思います。

認知症についていろいろ知ることができて良かった。私の家にもおばあちゃんがいる、認知症ですが、今まで接し方が分からず変に気を使ったり、余裕がなくあたふたしていて、どうすればいいのかと日々思っていました。

今日、学んだことを家族みんなでも共有していつもと変わらず、楽しく生活することができるように、自分にできることをひとつずつでもしていきたいと思いました。

【感想】

☆認知症サポーター養成講座☆

認知症について正しい知識を知ることができました。これからいろんな困難や悩みなどが増えていくと思うけど、家族みんなで協力していきたいです。

認知症の方に自覚症状がないと思い込んでいましたが、本人が一番苦しい思いをしているということを知り、今までの自分の考えが恥ずかしくなりました。

また、症状にも様々な種類があり、治るもの、治らないものがあることに驚きました。

さらに、物忘れと認知症の違いについても知れたので、家族が少しおかしいなと思った時にも気付けると思うので良かったです。

ビデオの中の男の子がやっていたように、まずは相手の気持ちを考えて優しく接してあげることが大切だと思いました。学んだことを自分自身にしっかりきざみ、生活していきたいです。

私の家族には、まだ認知症の人はいませんが、今後、家族が認知症になったら、今日、教えてもらったことや動画で学んだことを活かして対応していきたいです。

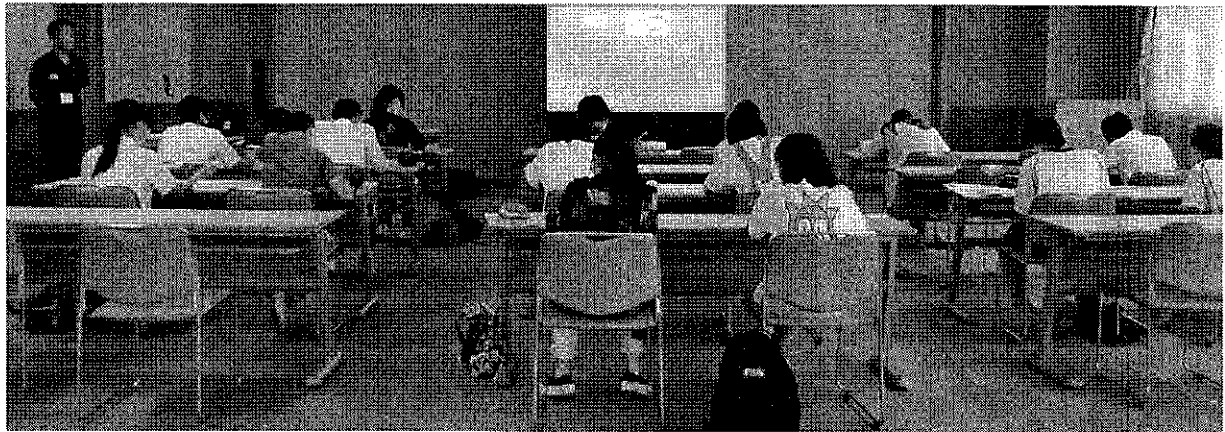
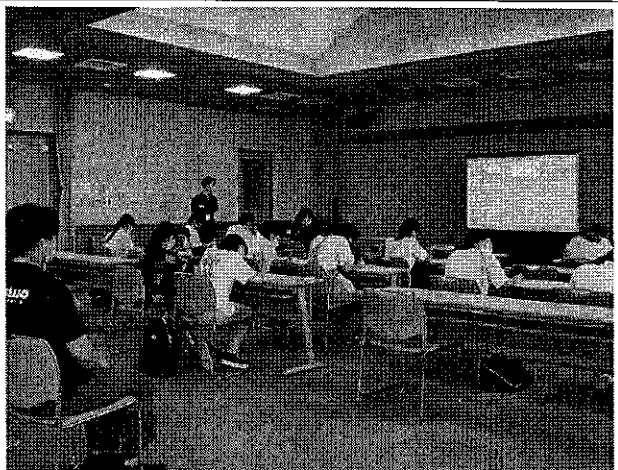
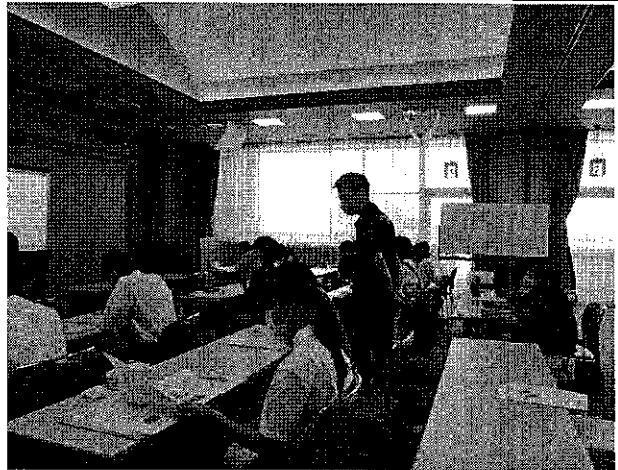
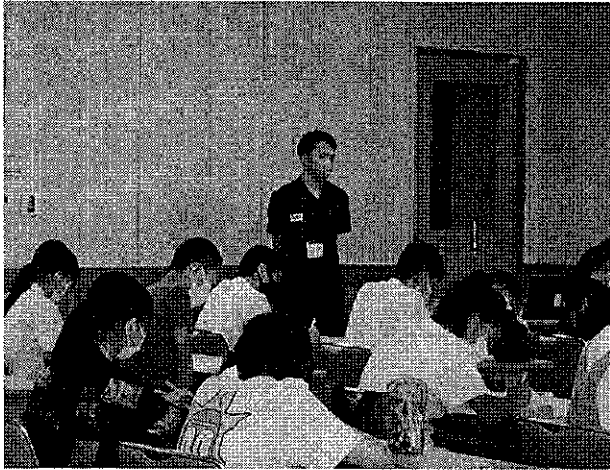
私は、本人も自覚していて本人も不安だということをはじめて知りました。

だから、本人の気持ちを考えて理解したうえで優しく教えてあげようと思いました。

まずは、本人のやり方を優先してあげて、本人らしく、生活させてあげたいです。私は家族が認知症になったら日付を大きくはったり、どこに何があるか、紙をはったり、夜は、トイレの電気をつけておいてあげたいなと思いました。もし失敗してもおこらないことが大切だということが分かりました。

先輩のお話を聞こう

【講師】 西条市役所 社会福祉課職員



【内 容】

- ◎ ワーク：「もし、聴覚障がい者が転校してきたら？」他
- ◎ 講話「先輩の話を聞こう」聴覚障がいについて、いろいろなコミュニケーション
- ◎ 多様性について

【感想】

☆先輩のお話を聞こう☆

聴覚障がい者とコミュニケーションをとる方法を知れた。もし聴覚障がい者がいたら、身振りをつけて話したり、メモ帳などで話したりしたい。

聴覚障がい者の人と上手く会話ができるようになるためにはいろいろな方法があるのだなと思いました。

この世には、様々な障がいがあることが分かりました。障がいをもっている人は生活でいろいろな大変な思いをしながら生きていることが分かりました。

よくテレビや漫画などで、障がい者を差別するようなことが載っているのを見ます。

私は、絶対にそんなことをしないように手助けをしたりしながら、生活していきたいと思いました。

いろいろな障がいとかは関係なく、同じ人間だということを忘れず、普通に楽しく接したいと思いました。相手の気持ちを考えて寄り添って、互いに助け合いながら、よりよい社会、世界にしたいと思いました。

補聴器や人口内耳など、深く知ることができてよかったです。とても分かりやすかったです。これからももっと考え続け自分にできることをしていきたいです。

今、私のまわりに耳の不自由な人はいませんが、もしいつか出会ったら、今日教えてもらったことを活かして接したいです。話をするときは、ゆっくり大きな声で話して、口を大きくあけて話すことが大事だと分かりました。

他にも筆談や身振りなどでもできるので活かしたいです。他にも補聴器をつけているから聞こえるわけではないので、少し気づかいができるようにしたいなと思いました。

耳が不自由でも、普通に会話ができると思いました。この話を聞いて、手話を覚えてみたいなと思いました。日本語の発音などをしっかり覚えて使えていてすごいなと思いました。

私の妹の友達は、聴覚障がい者です。正直、どう接して良いか分からず、最初はとまどっていたのですが、その友達は、とても字がきれいで、筆談を試みるととても面白い子でした。今回、このスクールで学習したことを活かしてさらに筆談をしていきたいです。手話を覚えてもっとその友達と仲良くなっていきたいです。ありがとうございました。

【感想】

☆先輩のお話を聞こう☆

聴覚障がいの人とのコミュニケーションの仕方や補聴器のことがよく分かりました。

私は、小学校のころに聴覚障がいの子と遊んだことがあって、私は手話ができないので、メモでコミュニケーションをとっていました。今日習ったように手話でもコミュニケーションをとれるようになりたいです。

僕のまわりにも耳が聞こえない人がいます。しかし、みんないつも通り、みんなと同じように接しています。そのためには、みんなスマートフォンのアプリなどを使って相手に気持ちを伝えたりしています。

それに、耳が聞こえない人が困っているときにはどのような対応をすれば相手が困らないようになれるかということをしっかり考えることができました。

聴覚障がい者の方は、見た目では分からなくてコミュニケーションにとまどうかもしれないけど、一通りのやり取りの方法が知れたので、もし会ったらそのようにしてお話しをしたいと思います。

口の動きである程度、相手が言っていることを読み取れるってすごいなと思いました。手話を覚えるのは、やはり時間がかかるものでもあると思うので、大変なことも多いと思うけど、頑張ってもらいたい、応援したいという気持ちになりました。

聴覚障がい者の方は、全員補聴器を着けていて、補聴器を着けたらみんな聞こえるようになると思っていました。だけど、皆が着けているわけではないし、着けた人が皆聞こえるようになるわけではないということを知りました。

コミュニケーションを大切にして、手話だけでなく、メモ帳を使って筆談をしたり、口を大きく開けてゆっくり話せばだれでも会話することは可能です。だから、決して差別せず、自ら助けてあげようと思いました。

私は聴覚障がいのある人に会ったことがありますが、実際にどんなことに困っているかや、どうやって話を聞きとっているかは知りませんでした。

もし、聴覚障がいのある人と話したりするときは、なるべくゆっくりはっきりジェスチャーを使って話したり、筆談したりしたいと思います。

また、普段の生活でどんな人でも困っている人がいたら積極的に声をかけるようにしたいと思います。相手のことをしっかり受け入れたいです。

耳の不自由な人にやさしくしなければいけないなと思いました。

【感想】

☆先輩のお話を聞こう☆

聴覚障がいのある人は、声がきこえなかったり、聞こえづらかったりして、相手と上手くコミュニケーションが取れず困ってしまうことがあると思うので、困っている人を見かけたら声をかけたいと思いました。

手話を覚えたりして、聴覚障がいの人を少しでもサポートすることができたらいいなと思います。今日、教えていただいたことを十分に活用していきたいです。分かりやすく伝えたいです。

耳が聞こえる人も、聞こえない人も同じ人間であることを忘れてはいけないなと思いました。

コミュニケーションの取り方は、たくさんあることが分かりました。耳の不自由な人がいたら、差別などはせず、紙に書いたり、手話をやってみたりして、助けてあげればいいなと思いました。

最初、補聴器をつけていれば、ある程度は聞こえるものだと思っていました。ですが、2メートルほどまでしか聞こえず、遠くの人の声は聞こえないということを知りました。

また、アナウンスや待合室での呼び出しが聞こえにくいなど、大変なことが思っていたよりも多かったです。

「人工内耳」という言葉を新しく知りましたが、補聴器と同じ役割なんだなと思いました。

さらに、聴覚障がい者の方は、私達の口を気にしていることを知り、もし今後どこかで接する場面があれば、活用したいです。直接お話を聞くことは少ないので、良い体験になりました。

ワーク 回答集

1. 耳が聞こえない(聴覚障がい者)人と出会ったことまたはみかけたことはありますか？

はい 9人 ・ いいえ 7人

2. 耳の聞こえない人(聴覚障がい者)が転校してきました。どんなことが困ると思いますか？

うまく会話ができない(会話をするのが難しい)

手話ができないので会話するのに時間がかかる

授業で重要な事が分からない、生徒や先生が話している内容が分かりにくい。

先生が言った黒板に書いてある内容以外の重要なことが分からない(授業中)

放送で大事なことを言っている内容が分からない

テストなどのリスニング問題が解けない

友達や先生の声が聞こえず、人間関係や勉強などが大変になる

手話ができない、うまくコミュニケーションがとれるか心配

3. 聞こえない人に私たちができることは何だと思いませんか。

空中に指で文字を書いて表す

優しく明るい笑顔で接する

口の動きを大きくはっきり動かして話す

声をかけるときは正面からかける

放送や授業中などの音声で重要なことを言われた際は教えてあげる

自分にできること（手話など）を少しでも勉強する

無理にせかさない。ゆっくり丁寧に伝える。

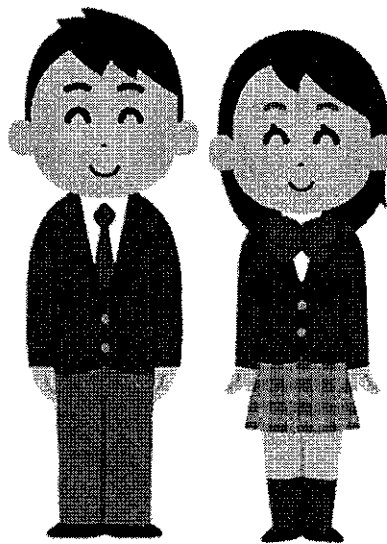
その人の目線に立って考える

ジェスチャーをつけて話す

紙などを使って筆談する

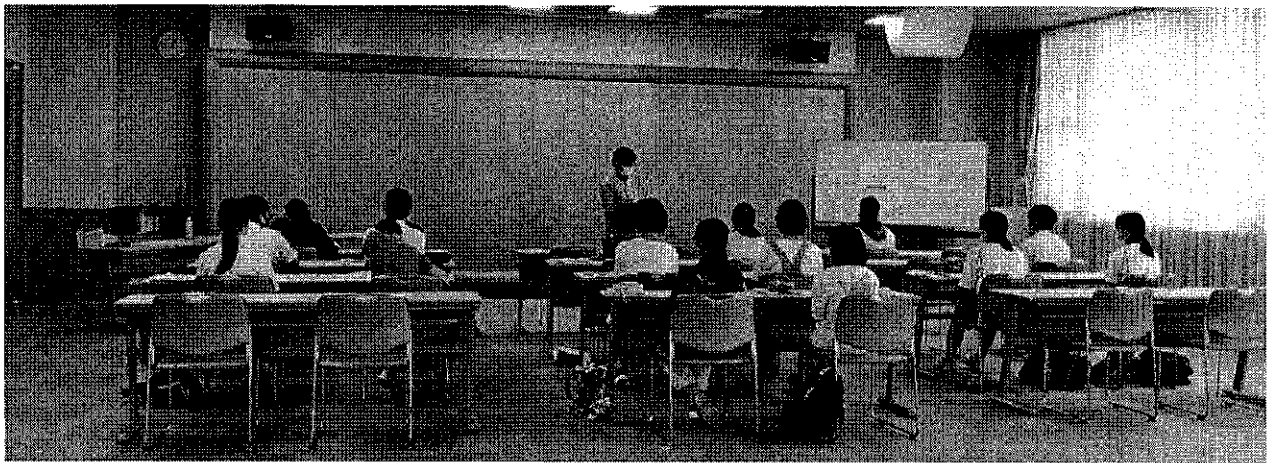
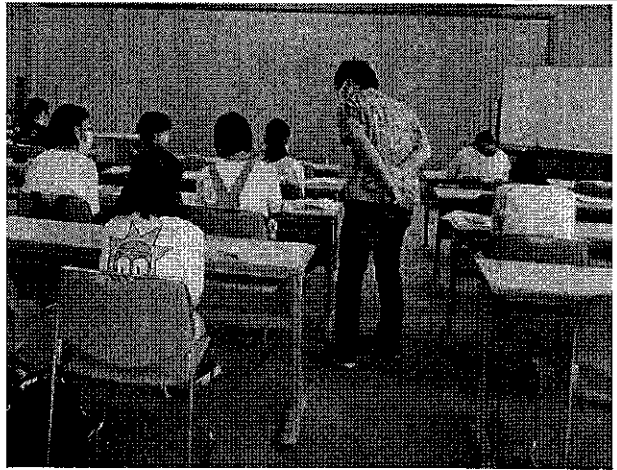
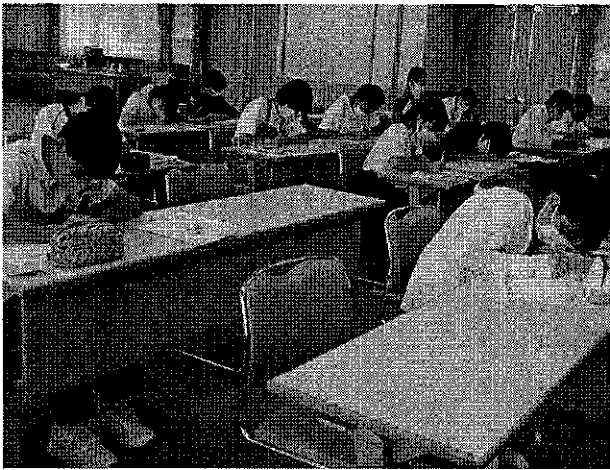
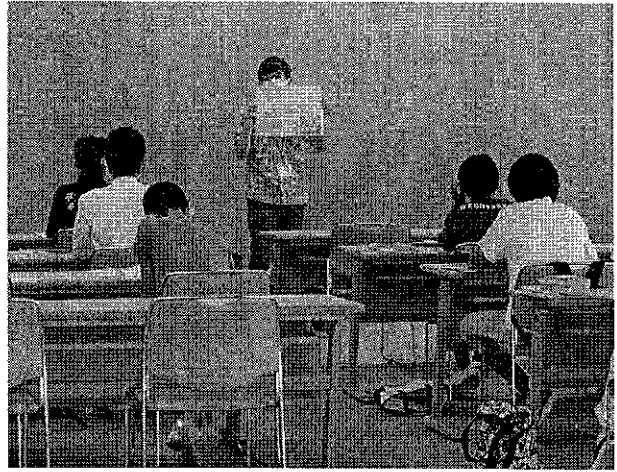
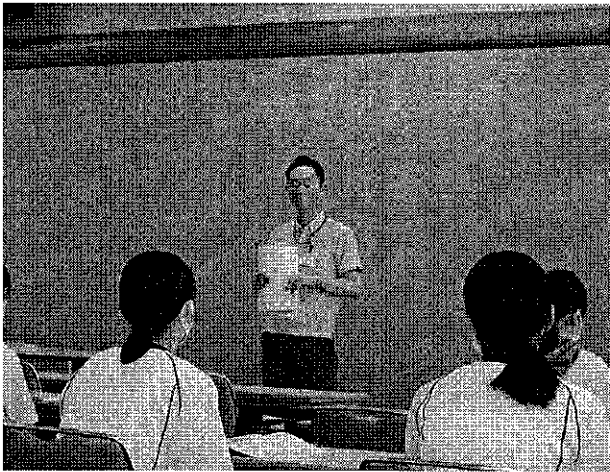
自分勝手な行動をせず、相手のことを考える。

簡単な手話を使う
(手話を学んで覚えたい)



福祉やまちづくりについて思いっきり考えてみよう

【講師】 西条市市民活動支援センター 職員 / 西条市社会福祉協議会 職員



【内 容】

- ◎ 福祉についての講話（西条市社会福祉協議会）
- ◎ まちにすむ「みんな」を書き出そう！（個人作業）
- ◎ 「みんな」がどんなまちだったら暮らしやすい？（個人作業）
- ◎ 暮らしやすいまちになるために自分自身ができることは何だろう？（個人作業）

【感想】

☆福祉やまちづくりについて思いっきり考えてみよう☆

私の住んでいる町には、たくさんの人が住んでいて、住みやすい町にするために自分ができることもたくさんあると思いました。自分の身近なことからしていきたいです。

まちに役立つ自分にできることは何かを考える機会ができたので良かったです。これからももっと考えていこうと思います。

まちのことなどをよく考えられたのでよかった。他の人の意見などが分かった。

みんなが暮らしやすいまちにするために、どんなことをすればいいかが分かりました。

全ての人、どんなまちだったら嫌なことがなく暮らすことができるのかを考えることができました。この考えたことを踏まえて自分には、どのようなことができるのかを考えて書くことができたので、これを目標にこれからもたくさんを学んでいこうと思います。

今日、私は福祉について習って福祉は大切なんだなと思いました。きれいな町づくりにするために、自分自身も協力したいなと思いました。

そして安心できる町づくりにしたいです。そのために今日習ったことを活かしてがんばりたいです。

みんなが暮らしやすいまちについて考えることができ、どうすれば暮らしやすいまちを作れるのかなどについて分かりました。

自分が今できることから進んでやっていきたいと思いました。みんなが暮らしやすいまちになれるようにがんばりたいなと思います。

いろいろな工夫をすることで、今からでも変えることができるなと思います。

自分たちのまちにすむ人は、いろんな人がいるということを知りました。暮らしやすいまちって何だろう？というのあまり深く考えたことがなかったのでこの機会に書き出してみることで、いろんなことが見つかって、それと同時に課題もたくさん見つかりました。

自分達ができることを考えることができたので、少しずつでいいから実現させていこうと思いました。

まちづくりは大切だなと思いました。

【感想】

☆福祉やまちづくりについて思いっきり考えてみよう☆

自分達がよく言っている「みんな」は、いろいろな人が入っていることを知りました。ひとりがみんなのためにできることを考えながら、生活していきたいと思いました。

私はこの活動で、改めて考えさせられたことや、これをきっかけに今、自分ができることを考えられたので、とても良い経験になりました。

西条市、日本、世界には、高齢者の方や障がい者の方など本当にさまざまな人がいます。世界中のみんなが幸せに暮らせるように、まずは身近な人を笑顔にしたいです。

「みんな」っていうのは、どのくらいの範囲のことを言っているのか、言われてみると、自分も考えたことがないものでした。他の意見を聞いてみると、自分が知らない人たちのこととかも書いてあって、まだまだ知らないことたくさんだと思いました。

これからの将来をよりよくするために、私たち一人一人が小さなことをやっていって、地球に貢献できるような人になっていけたらいいなと思いました。

「みんな」について考えたことで、どんなまちにしたら良いかがとても思いつき、今まで思いつかなかったことも思いついた。この活動のようにステップを踏んで考えることがとても大切だと感じたので、今後の生活でも活かしていきたいと思う。

最初に考えた、まちに住む「みんな」が思っていたより多くいて幅が広がったです。そのため「みんな」が暮らしやすいまちを実現することがとても大変だということも知ることができました。周りの友達という考えから、障がいを持つ人、全てに共通するのは、相手のことを考えるということなのかなと思いました。まだ中学生なので大きなことはできませんが、あいさつやりサイクル、伝えるということは今すぐでもできると思うので、今日学んだことをこれからの自分の糧にしたいと思います。

考えれば、考えるほどたくさんあって、自分達の「まち」などについて深く考え知ることができた。すごく話が分かりやすかった。たくさん知識として知ることができたことを共有したいと思った。これからも「まち」などについて調べたり考えたりしたいと思った。とても興味が出てたのしい時間だった。

「みんな」というのは、たくさんいるので、「みんな」がどうやったら、暮らしやすいのかと、たくさん考えて、これから行動していきたいです。

今、私にできることは、今日、学んだことを家族に伝えることだと思うので、帰ったら、家族に伝えたいです。みんながありのまま、過ごせる社会にするために私も日々考えて行動していきたいです。

ワーク 回答集

1. まちに住む「みんな」を書き出そう

男性、女性、LGBTQ+（性的マイノリティ）、男の子、女の子

赤ちゃん（幼児）、幼稚園生、小学生、中学生、高校生、大学生、若者、大人

子ども、お年寄り（高齢者）、年上、年下

兄、姉、弟、妹、父、母、祖父、祖母、いとこ、孫、親戚

聴覚障がい者、視覚障がい者、手足が不自由な方、車いすに乗っている人

認知症の方

白人、黒人、目が黒・青・茶色の人、髪が黒い・茶色・白い人

動物（ペット）、生物、犬、ねこ

地域の人、友達、近所の人、病気の方

メガネの人、太い人、細い人、髪が長い・短い人、筋肉の人、背の高い人

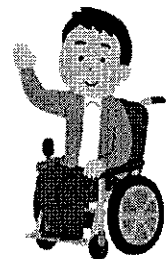
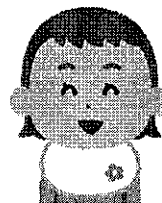
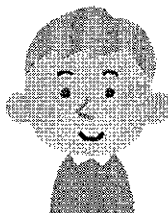
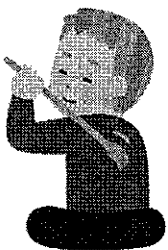
おしゃれな人

生き物が大好きな人、明るい人、おもしろい人、優しい人、歌がうまい人

ウインクができる人、ゲームがうまい人、ねることが好きな人

遊ぶことが好きな人、高い声の人

道で生活をしている人、福祉施設で生活する人



2. 「みんな」がどんなまちだったら暮らしやすい？

《協力・助け合い》

お互いが協力しあえるまち

ひとりひとりがみんなのために支えたり協力しあえたりするまち

障がいがある人や病気のある人を助けられる

障がい者やお年寄りの人がこまっていたら助けられるまち

障がいのある人をサポートができる

困っている人をすぐに助けられる

「人のために」と思う気持ちが多いまち

ひとりひとりが自分たちに出来ることをすすんでするまち

《安心安全なまち》

事件や事故がない

災害がおきる心配がない町

事故や詐欺がない町

体の不自由な人や病気の人などが楽しく安全に暮らせる

道路がボコボコしていないまち

バリアフリーが充実しているまち

全ての階段などにスロープがつけばその方たちには良い町になると思う。

全ての道に点字ブロックが使われ、目の不自由な方が、安心できるまち

動物が安心して暮らせる

ルールやマナーをしっかり守るまち

ユニバーサルデザインを使う。

《尊重・互いに理解・認め合う関係のあるまち》

ひとりひとりを尊重できる

相手の気持ちを考えられる人が多くいる

みんながみんなを思うまち

友達や家族、身近な人を大切にできる人が多くいる

障がいのことをよく理解してるまち

けんかやイジメ、差別がないまち

差別のない明るいまち

嫌な思いをする人がいないまち
不快な思いをする人がいないまち
誰もが皆のことを理解していて、その違いがどうしたのと言えるようなまち
全ての人がお互いの意見や考えを分かり認め合うことができているまち

《みんな優しく、仲が良いまち》

優しい人が多いまち
優しさがつまったまち
みんながやさしい
みんなの仲がとて素晴らしい
悪い人が1人もいない
動物に対して優しいまち
仲良く暮らせる

《あいさつができるまち》

あいさつが行き交うまち

《楽しく笑顔が多いまち》

笑顔が多いまち
おもしろ、楽しいまち
楽しく暮らせる
みんなが笑顔で暮らせる
笑顔あふれる明るい楽しいまち

《自然豊かなまち》

自然がたくさんあるまち
自然が多い楽しいまち
空気など環境がきれいなまち

《豊かな、生活に困らないまち》

おいしい食べ物があふれるまち
働く場所がたくさんあるまち
欲しい物が手に入れやすいまち
だれにも不利益がうまれないようなまち
お店がたくさんあるまち

ゆたかな平和なまち
サービスが豊富なまち
困っている人や泣いている人が少ないまち

《人々の夢や希望に満ちたまち》

人それぞれいろんな夢や希望のあるまち
みんなの夢や希望を実現しやすいまち
ひとりひとりの願いが実現したみんなにあったまち

《実現したいことを実現できるまち》

好きなことができる
いろんな人の個性を生かされるまち
言いたいことが言えるまち
すてきなまち
不安がない
戦争などの争いがないまち
医療がすごく進んでいてどのような病気でも治る薬がつけられているまち

《ごみがなくきれいなまち》

ごみや廃棄物が少ないきれいなまち

3.暮らしやすいまちになるために自分自身ができることはなんだろう？

《まずは知る・考える》

障がいについて知ること
今、生活しているまちについていいこと、悪いこと（改善すべきこと）を知る
何をすれば、みんなの役に立つか考えること
世界にはいろいろな人がいることを学び、受け入れること
勉強して勉強したことを活かす。何かにつなげる
僕たちがみんなのことを理解して、それについて他の人に教える
自分が率先して不利益が生まれないまちについて考える
それをみんなに共有し達成できるように考える
LGBTQ、障がいのある人、認知症の事などについてもっと正しい知識を得る
今のうちにたくさん勉強して病気を治せるようになる

《自分自身が気を付ける》

車や自転車にぶつからないようい安全面で気を付ける
マスクをしっかりとる
交通ルールを守る
ルールやマナーなどをしっかりとる
自分自身の生活を見直す

《困っている人がいたら助ける》

困っている人がいたら声をかけて助ける
困っていたら助けること
電車の席をお年寄りの方や、体が不自由な方にゆずる
家族で助け合いの輪をつなぐ

《差別をしない》

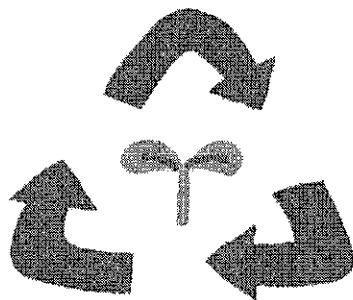
差別などが起こらないように思いやりの心を持って行動する
いじめや差別をしない
誰に対しても対等に公平に接する

《あいさつをする》

先生や地域の人に明るいあいさつを進んでする
元気に挨拶する
まちの人などに会ったりしたら大きな声であいさつをする

《ゴミを拾う、自然を大切にする》

クラスの人たちで地域のゴミを拾う活動をする
同級生や友達と一緒にゴミをひろうボランティア活動をする
リサイクルをする（ごみを減らす）
カンやピンをリサイクルする
3R
自然を大切にする



《ボランティアや活動に積極的に参加する》

ボランティアに参加する

人との交流を積極的に行う

地域行事への参加

ボランティアスクールなど、たくさん積極的に参加する

目の前にある物事を進んでする

《自らが伝える、行動する》

募金活動を行い、いろんなことに役立ててもらおう

ひとりひとりに思いやりの気持ちをもって接する

笑顔を忘れず明るく楽しく接する

目標を立てて実行する

LGBTQ、障がいのある人、認知症の事などを知らない人に正しい事を教える

車いすなどを使っている人のために、「ここは段差があるので危険」などの情報をまとめた冊子などを発行して提供する。

周りの人に認知症や体の不自由な人のことをしっかり知ってもらうために説明をする。

令和3年度 夏休みボランティアスクール実施要領

1.目的

小、中学生の夏休みを利用し、ボランティア体験等を通して、ボランティアや福祉への理解と関心を深める。

2.日時

小学生コース

令和3年8月12日(木) 9:00~12:20

令和3年8月13日(金) 9:00~12:00

小学生コースは、新型コロナウイルス感染拡大のため中止

中学生コース

令和3年8月5日(木) 9:00~12:40

3.会場

小学生コース

西条市東予総合福祉センター(周布606番地1)

中学生コース

西条市東予総合福祉センター(周布606番地1)

4.主催

西条市社会福祉協議会(西条市ボランティアセンター)

5.対象

小学生コース 市内の小学4年生~6年生

中学生コース 市内の中学1年生~3年生

6.定員

小学生コース 15名程度(先着順)

中学生コース 15名程度(先着順)

7.参加費 無料

8.スクールの日程等(別紙参照)

9.広報活動

本会ホームページ、フェイスブック、ポスター、チラシ等

10.申込先

西条市社会福祉協議会 (西条市ボランティアセンター)
西条市周布 606 番地 1 (担当：正岡)
TEL 0898-64-2600 * FAX 0898-64-3920

11.申込締切

令和3年7月26日(月) 但し、定員になり次第締切

12.参加証の交付

当日、本事業に参加された方全員に参加証を交付

13.注意事項

新型コロナウイルス感染拡大状況や自然災害等により中止とすることがありますので
ご了承ください。

参加が決定された方には、保護者承諾書をご提出いただきます。

14.事務局

西条市社会福祉協議会 (西条市ボランティアセンター)
西条市周布 606 番地 1 (担当：正岡)
TEL 0898-64-2600 * FAX 0898-64-3920

小学生コースは、新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受け、中止といたしました。

◆ 学校別参加者数一覧 ◆

合計参加者数：16名

学 校 名	参加者数 (単位：名)
西条北中学校	3
西条南中学校	4
東予東中学校	4
東予西中学校	4
丹原東中学校	1